



やまぶき

一関市立大原小学校 校報 No. 22
2026.8.31 文責：校長 松田

学んだその日の復習を大切に

ドイツの心理学者エビングハウスは、学んだことをそのままにしておくと、時間の経過とともに忘れやすくなることを研究で示しました。これが「エビングハウスの忘却曲線」です。学習直後は覚えていても、復習をしなければ翌日には内容があいまいになることがあります。だからこそ、学んだその日のうちに短時間でも振り返ることが、学習内容を確かな力にしていきます。

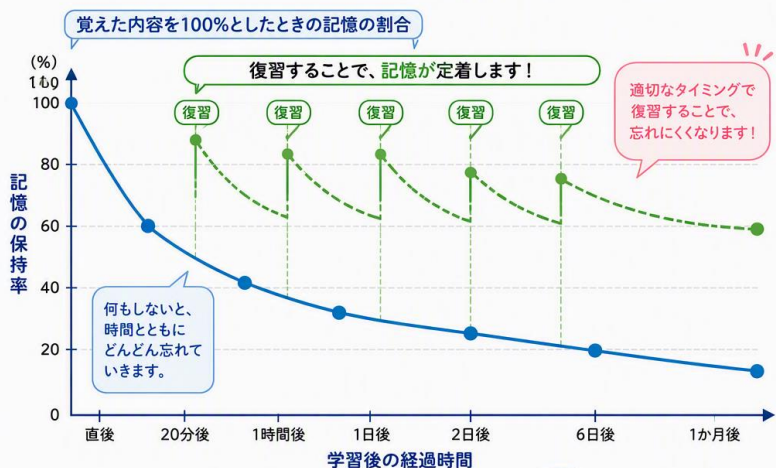
学校では、帰りの会終了後に「スマイル学習」の時間を設け、その日の算数の復習に取り組んでいます。また、放課後子ども教室では、地域の皆様に宿題への取組を支えていただいています。こうした日々の積み重ねが、子供たちの学習習慣を育て、学力の向上にもつながっています。

ご家庭でも、「今日はどんな勉強をしたの?」「できたね」「続けていてえらいね」など、温かい声がけや確認を引き続きお願いいたします。学校・家庭・地域で力を合わせ、子供たちの「分かる・できる」という喜びを育ててまいります。



エビングハウスの忘却曲線

ドイツの心理学者エビングハウスの研究によると、人は学習したことを時間の経過とともに忘れてしまうことがわかっています。



学校生活に活かそう!

- 授業の内容は、その日のうちに復習しよう!
- 1日後、1週間後、1か月後など、くり返し復習することが大切です。
- 復習は、テスト勉強だけでなく、日々の学習の習慣にしよう!



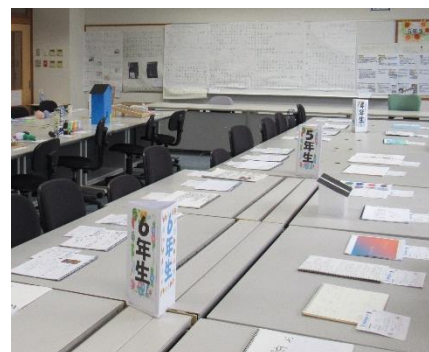
コツコツ復習して、学んだことをしっかり自分の力にいきましょう!

夏休み作品展

夏休みに子供たちが一生懸命取り組んだ作品を集めた「夏休み作品展」を、8月25日(火)から28日(金)まで開催しました。

会場には、自由研究や工作など、子供たちの工夫やがんばりが伝わる作品が数多く並びました。

一つ一つの作品から、夏休みの中で楽しく学び、じっくり取り組んだ様子が感じられる、見応えのある展示となりました。



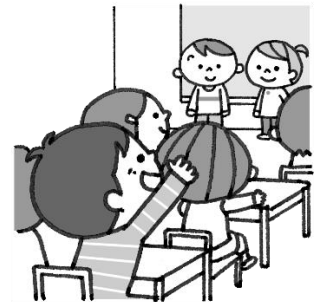
話し合いから育つ力

8月21日(金)の3校時、5年生の教室で学級活動が行われていました。議題は、2学期の係活動についてです。もともとは役割分担を決める予定だったようですが、議長の児童から「係の内容を見直す必要はありませんか」という提案があり、話し合いが始まりました。

中でも印象に残ったのは、「整理整頓係は必要か」という話し合いです。「一人一人が自分でしっかりできるようになることが大切だから、なくてもよい」という意見がある一方で、「友達がけがをしないように、いつも教室をきれいにしておくために必要だ」という意見も出されました。どちらも学級のことを真剣に考えているからこそ意見であり、子供たちの思いがよく伝わってきました。

話し合いの結果、5年生は整理整頓係を置かないことに決めました。その代わり、一人一人が自分で片付けをしっかり行うこと、そして片付いていないときには互いに声をかけ合ったり、自分から整理したりすることを確認していました。

結論が出るまでには1時間近くかかりましたが、自分の考えを伝え、友達の意見に耳を傾けながら、みんなで納得できる形を見だしていくことの大切さを感じる時間となりました。こうして話し合いを重ね、自分たちで考え、判断し、行動していく力は、これからの学校生活はもちろん、今後の人生においても必ず生かされていく力であると思いました。



代表委員会(児童会)

8月28日(金)、代表委員会を行いました。各学級の代表が集まり、夏休みの生活を振り返るとともに、9月の生活目標「相手の気持ちを考えて行動しよう」の取組について話し合いました。

取組として、「思いやりカード」に友達にしてもらってうれしかったことなど、感謝の気持ちや友達のよさを書くことが提案されました。また、積極的にあいさつをすること、「さん」「くん」を付けた名前の呼び方や言葉遣いを見直すことなども話し合われ、全学級が賛成し、学校全体で取り組むことを確認しました。

また、熊本地震で被災された方々を支援するため、大原小学校児童会として募金活動を行うことについても提案され、賛成されました。思いやりの気持ちを、日々の行動に表していきます。

※募金活動については、後日、児童会からお知らせがあります。



地域のご支援に感謝

地域の金野様より、校庭の幅跳び用踏切板を作製していただきました。1学期の陸上練習で、古い踏切板が腐食して壊れていることを気にかけてくださり、子供たちが安全に練習できるようにと準備してくださいました。温かいご支援に、心より感謝申し上げます。

